

# 遺跡見学会資料

2008年8月19日 豊島区教育委員会

染井遺跡・旧興銀ひろば整備地区では、2008年7月7日から発掘調査を行なっています。樹木や遊具などを設置するため遺跡を破壊してしまう恐れがあり、その範囲について事前に調査するのが目的です。調査範囲は約750㎡で、この範囲以外では遺跡が今後も保存されていきます。

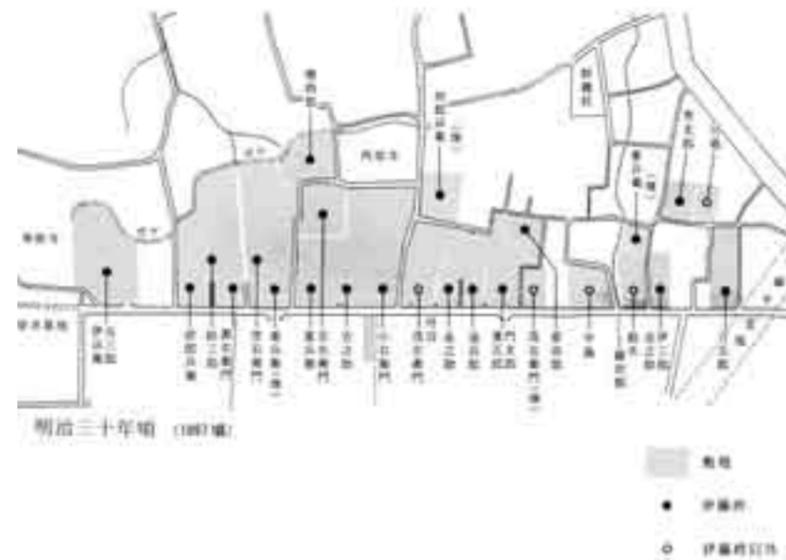
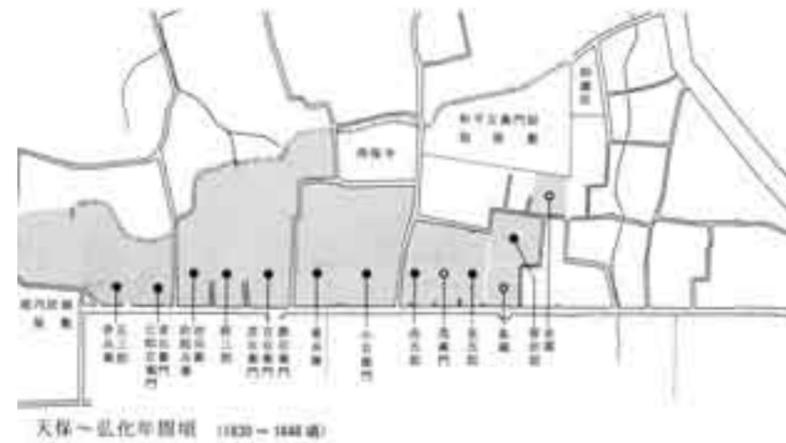
発掘調査では、江戸時代の遺構が主に発見されています。江戸時代にこの付近は染井という地名で呼ばれ、植木屋が多く住んでいたことで有名です。江戸時代の末頃の地図や絵図からは住んでいた植木屋の名前なども明らかになっています。

さらに、絵図では「三峯山」などと書かれた部分があり、発掘で見つかった遺構や遺物のなかに、この社に関連するものがあるのではないかと考えています。

また、江戸時代だけでなく、縄文時代の落とし穴も発見されています。これはイノシシやシカなどの獲物を捕らえるために掘ったものと考えられています。



染井 王子 巢鴨辺絵図 尾張屋板 嘉永7 (1854)年 (部分)



染井通りに並ぶ植木屋



重兵衛にくけい (左)  
染井重兵衛『草木奇品家雅見』



桜草 (「近世風俗誌」)

## 伊藤重兵衛

著名な植木屋である伊藤伊兵衛の分家筋にあたる伊藤小右衛門の五代目から、文化2 (1805) 年に分家。代々重兵衛を名乗る。

栽培種：菊、肉桂、桜草

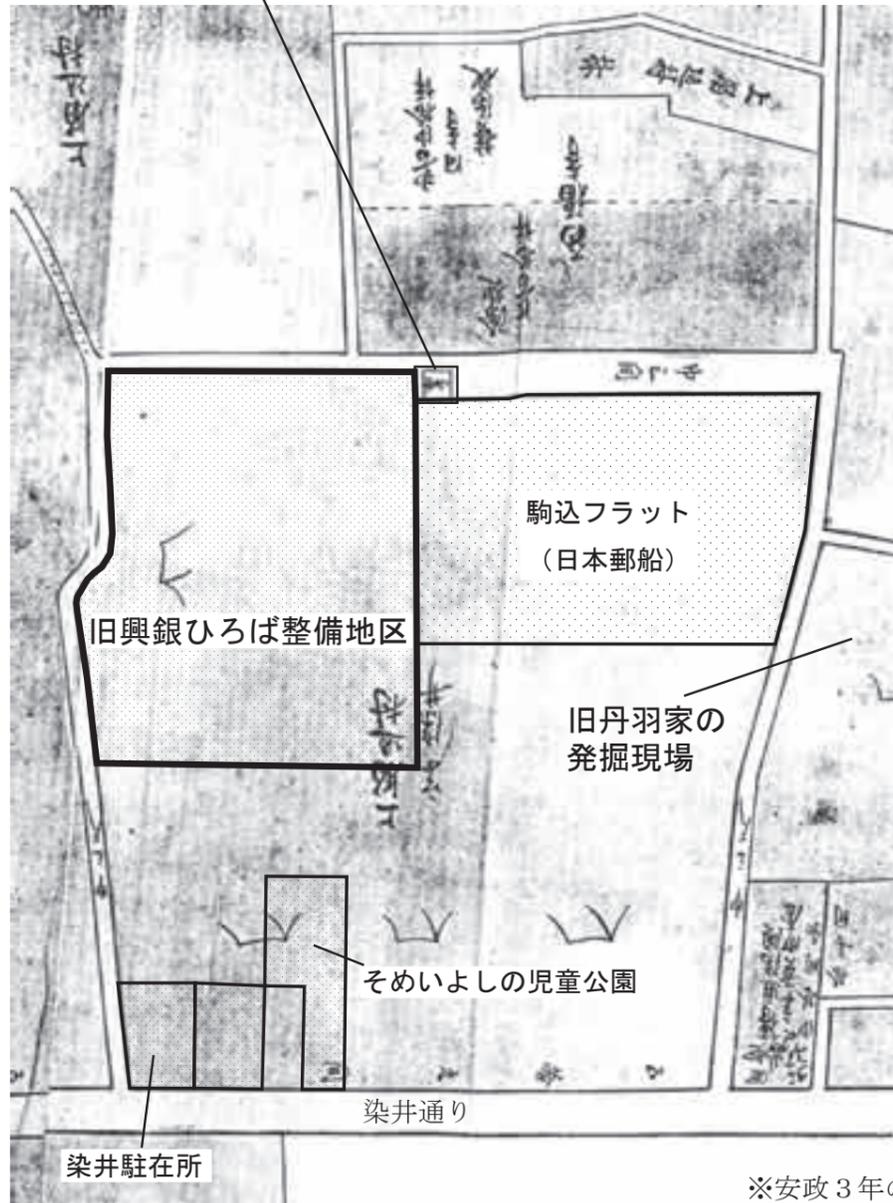
- ・二代目重兵衛『桜草名寄控』万延元 (1860) 年
- ・四代目重兵衛『桜草名鑑』明治 21 (1888) 年  
『桜草栽培法』明治 36 (1893) 年

※ 1988年日本郵船地区 (現在の駒込フラット) 発掘調査

- ・素掘りの地下室には稲ワラが敷かれ、植木の温室として利用
- ・穴の開いた半胴甕が多く出土。桜草栽培に使用か

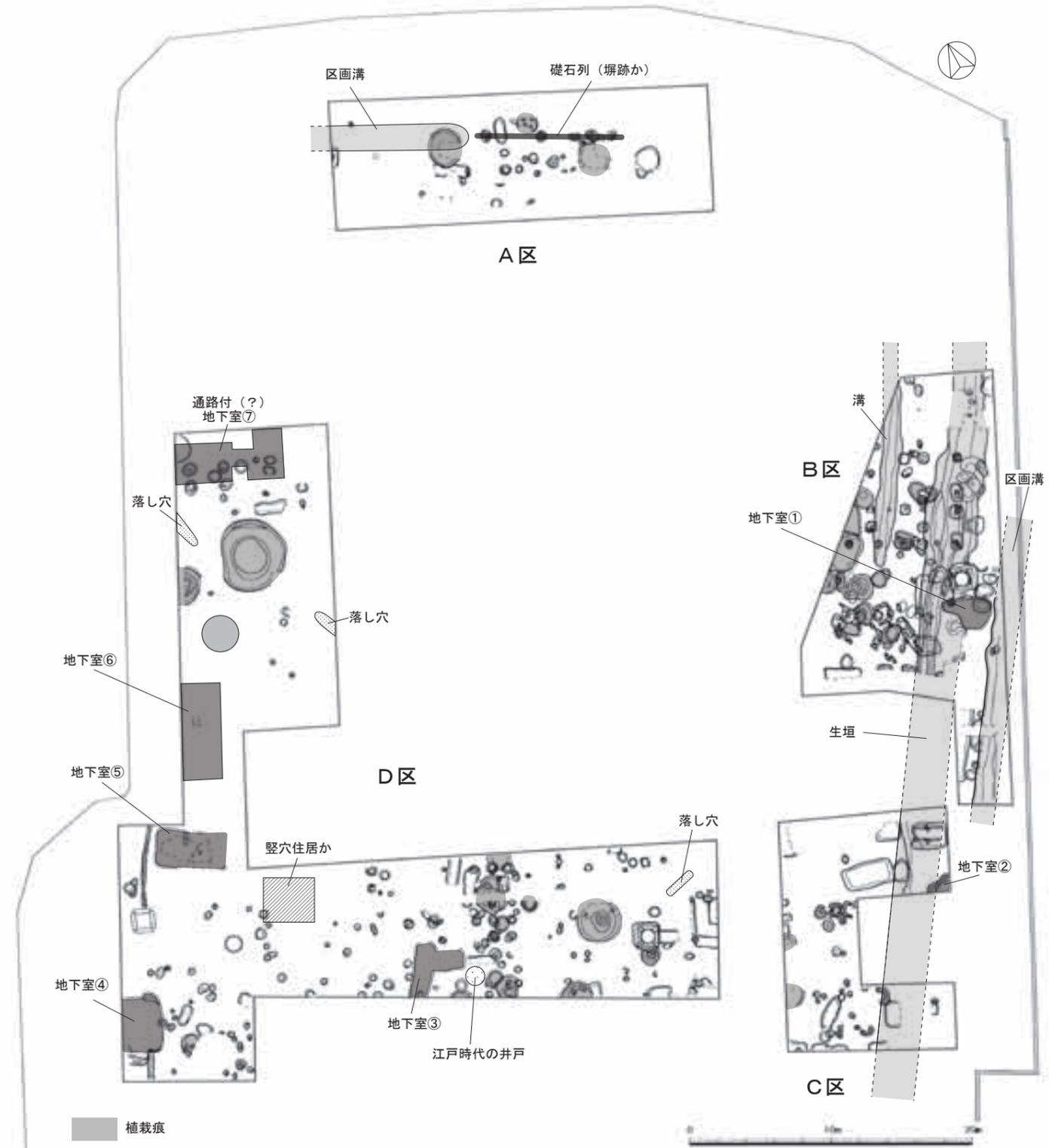


三峯の文字



※安政3年の図

伊藤重兵衛屋敷内における発掘調査

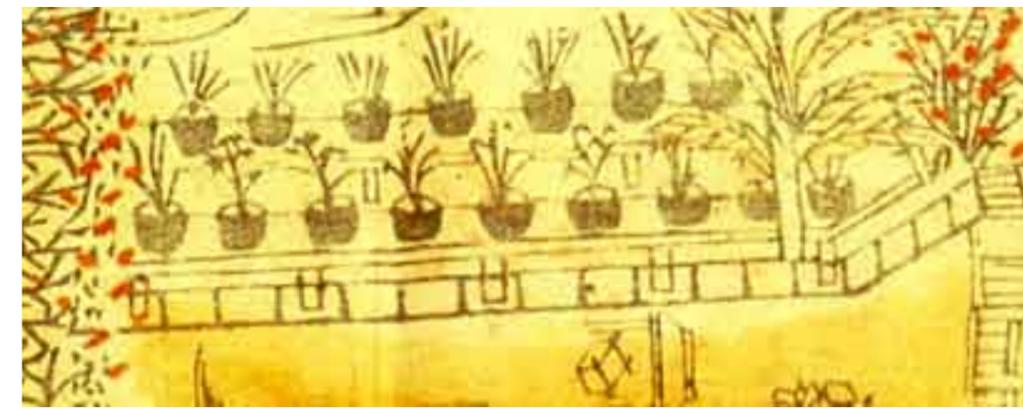
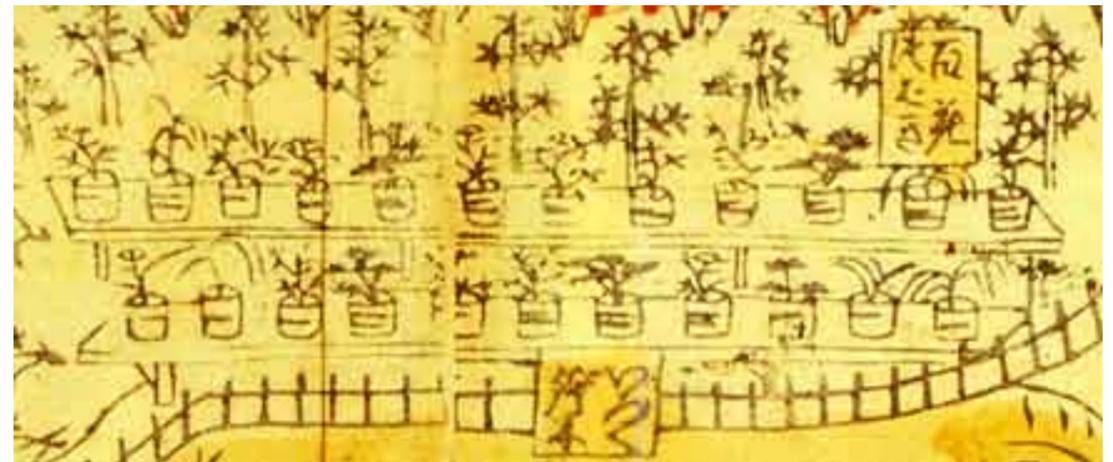


遺構配置図



染井之植木屋  
 花屋の侍先赤といふ  
 けしを植へてはぐさ  
 花のころはき妙群  
 集むそ外千茶  
 万本をもとけくこ  
 とたーはか舟一  
 の植木屋たを  
 上の方の所座木  
 鉢植など大々け  
 ともろりけり  
 とまのくわり

「染井之植木屋」『絵本江戸桜』享和3（1803）年



「武江翻紅軒霧島之図」部分  
享保期（1716～1735）頃



しやりんはい（右）  
染井茂右衛門  
『草木奇品家雅見』